



## 兵庫県 強度行動障害 地域生活支援事業の取り組み

— 住み慣れた地域で 暮らしていくために —



### 障害者支援施設 あかりの家

部長 亀山 隆幸  
(集中支援コーディネーター)

課長補佐 中西 多美

1

1

## 発表主旨

～ 行動障害により、地域生活が困難になった方たちが、  
安定的な暮らしを再構築していくための「有効な支援」や、  
「地域に戻った後の生活を支える仕組み」を考えていきたい。

- 1 施設紹介
- 2 事業概要
- 3 Aさんの事例



<職員体制> 利用者48名→正規職員：29名。パート：4名。  
<Aさん支援体制> ・正規15名（女性13名）、利用者24名のフローアー  
・4名の職員チーム（女性）を軸とし、他職員への波及へ

2

# 1 障害者支援施設 あかりの家

－ 行動障害のある人たちの人生の応援がしたい －

兵庫県高砂市

1986年開設（現在36年目）

<利用者> 48名中...

- ・ 自閉症： 約9割
- ・ 知的障害 重度： 97%
- ・ 年齢： 46歳～55歳が2/3



<事業内容>

- ・ 施設入所支援（40名）
- ・ 生活介護（40名）
- ・ 短期入所（6名）
- ・ 日中一時支援（10名）
- ・ 障害児等療育支援事業（県・姫路）
- ・ 兵庫県強度行動障害地域生活支援事業

① 全員が生産的作業に所属

② レインボーデー

公共交通機関を利用した少人数外出

③ ライフイベントへの参加

家族の一員として、きょうだいの結婚式、家族の葬儀への参加

④ リハビリ的ショートステイの受け入れ

行動障害等の理由により、地域生活が困難になられた自閉症の方たちの短期入所受入れ（1995～）

⑤ 自閉症療育のキーワード集  
－いい実践は言葉に残す－

（2002～）

3

自閉症の方たちの  
可能性を切り拓きたい!



社会福祉法人 あかりの家  
自閉症総合援助センター

障害者支援施設 あかりの家  
多機能型事業所 ワークホーム高砂  
児童デイサービス あかりの家  
ひょうご発達障害者支援センター クローバー  
地域支援センター あいあむ  
グループホーム 希望山荘日笠  
グループホーム オリーブの家  
グループホーム 友愛の家

1 生活の場 5 相談支援  
2 働く場 6 地域生活支援  
3 就労支援 7 地域作り  
4 療育支援 8 支援者養成

自閉症の人たちには、「生涯援助」の視点が欠かせません。  
「自閉症総合援助センター」は各ライフステージに沿って、あるいは時々  
の状態や状況に応じて、高度な専門性と総合的で多様なニーズに対応する  
ために必要とされる総合支援体制です。  
2016年の設立30周年を機に標榜し、総合的支援を推進しています。

4

## 2 兵庫県強度行動障害地域生活支援事業とは？

### (1) 事業開始の経緯と目的

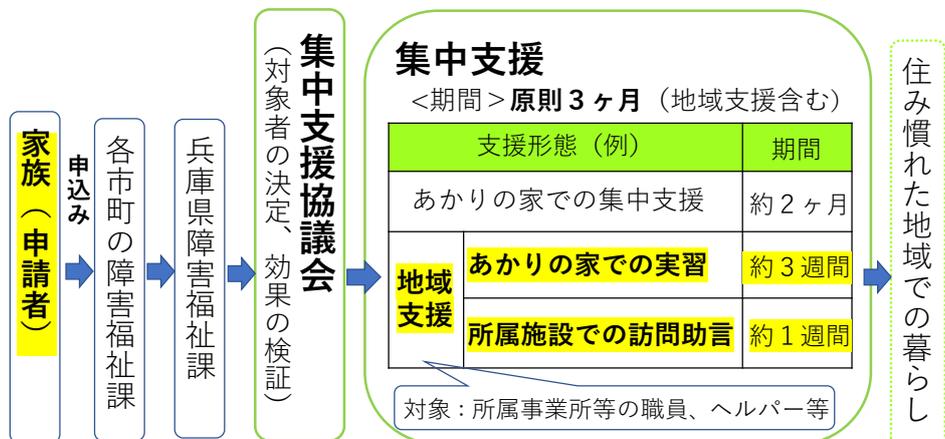
- 2018（平成30）年4月に兵庫県三田市で、親による障害者監禁事件が発覚、報道された。
- 保護者は、監禁の加害者である一方、自傷、異食、他害など、生活環境への適応が著しい不適応行動を頻回に示す我が子に対して、適切なサポートを受けることが出来なかった被害者とも言えるかもしれない。
- そこで、緊急性のある強度行動障害者を短期から中期間集中支援し、再度地域生活を送ることができる仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的に、県単事業として2019年創設された〔(社福)あかりの家委託〕。

5

### (2) 事業のスキーム

<対象者>

- ・原則、在宅障害者（所属：通所施設等）。
- ・18歳以上で「行動関連項目」判定基準で10点以上の障害者。



※事業嘱託医あり(精神科医)

6

6

### 3 Aさんの事例

#### (1) プロフィール

女性 (20歳) 身長154cm 体重 46kg

自閉症 療育手帳A (最重度) てんかん 投薬(別紙1)

支援区分: 5 太田Stage: Stage I - 2

家族構成: 父、母、本人、妹(中2)、妹(小5)

<利用サービス等>

【多機能型事業所】  
B園(生活介護)  
週5日通所

家庭

【居宅介護事業所】  
C事業所 (1.5h/回。2回/週) 平日 16:20~  
D事業所 (1.5h/回。2回/週) 17:50

【短期入所】  
E園 (1回/3ヶ月の利用)

7

#### (2) アセスメント (事前訪問・聴き取りから)

##### ① 疾患や障害、病気や身体的なことなど

てんかん • 利用8ヶ月前(2019.3)、てんかん発作初発(20歳)。翌4月に2回目の発作。投薬調整実施。今は見られていない。

##### ② 社会的なこと(家庭、施設、地域資源等)

家族 • 母親は「所属施設がこの事業利用に賛同いただけないなら施設を変わってでも、利用したい」と強い思いあり。

資源 • 週4回利用のヘルパーをうまく活用できないか？

##### ③ 能力・行動面

対人関係 • 孤立的だが、場面によっては人懐っこさや純粋な面が感じられる。

コミュ • 音声言語はない。不穏な時は「イボベー」等の発声。

ニケー • 要求はクレーン、自らおじぎすることも見られる。

シヨン • 理解は、写真≦実物・絵カードの印象。予定は絵カードで実施。  
• 否定的な言葉に反応しやすい印象(使用を避ける)。

学習 • 数唱では、数の終わりを待とうという姿勢が見られる。

8

### (3) 主訴となった行動

— 「3分でいいから目を離したい(母)」 —



		利用前	
		家庭	施設
服脱ぎ		裸のまま過ごしている事もある	<b>1日全裸の為、更衣室から出れない状態。</b> 多い時で <b>1日20回。</b>
排泄	失禁	なし 〔トイレ通いは止めない (30~40回/日)〕	<b>1日3回程度。</b> 多い時は <b>10回以上/日</b>
	ペーパー 使い切り	使い切ってしまう為、 ホルダーにつけていない	<b>1日2本は使い切る。</b> 止めると他害(髪の毛を掴む、 頭突き、噛む)
作業			歩き回る、ソファーに寝転んでいる。異食(石・葉・段ボール等)
食事		食べ物を一度食器から机に出し、 手づかみで食べる。 エプロン着用	
睡眠		22時~3時。覚醒後、 冷蔵庫の食物をあさる、 (他多数)トイレに水浸け	

9

### (4) 取り組み(形態)

	支援形態	ねらい	期間
1	あかりの家での集中支援	崩れてしまった行動・ 生活リズムを再構築	(約3週間) 2019.11月~
2	あかりの家で 生活しながら家庭支援	帰省・家庭生活に向けた保護者との練習	(1ヶ月) 2019.12月~
3	①あかりの家実習 (所属施設職員)	所属施設 職員が ノウハウ習得	(3週間) 2020.1月~
	②所属施設に 訪問助言	家庭から通所し、 事業後の形態へ	(1ヶ月) 2020.1月後半

関係者会議(家族、施設、相談支援事業所、行政、ヘルパー等)

【地域生活へ】効果の検証

【別紙3】参照<sup>0</sup>

10

## (5) 何が集中支援のポイントになったか？

① まず、あかりの家で行動障害を起こさなくても済む「成功体験を積み重ねる」

② そして、そのノウハウを地域につなぐ

①利用初日を

成功させてあげる ▶

②食事・睡眠・排泄／  
日中活動の充実(別紙2)

③衝動的・強迫的な  
行動への支援 ▶

④余暇時間に

取り組める活動の発掘 ▶

⑤医療との連携

(事業嘱託医)

(別紙1)

11

11

### 👉 ① 利用初日を成功させてあげる

— 「行動障害に埋没しないよう、私たちもしっかり応援するからね」 —

～あかりの家に入る前に まず別棟で受入れ〔父親、母親。職員5名(内、女性4)〕

#### (1) 利用理由の説明

13:00、来園。来園時には、つけることができないと言われていたブラジャーをつけてきておられ、母親の覚悟が見てとれた。

利用に当たり、両親の思いや応援の言葉を伝えてもらった。

◆父親：「服を着れるようになってほしい」  
「お皿をもって、ご飯を食べてほしい」

◆母親：「噛んだら、だめだよ」  
「元気になって帰ってきてね」と。

その後、G主任よりあかりの家で頑張ってもらおう3つの約束事について話をした。

1. 服を着ます 2. ご飯を食器から食べます 3. 作業を毎日します

「私たちも頑張るから、Aさんも頑張ろう」。うなずいておられた。

12

(2) 身体への働きかけ：駆幹ひねり（腰回りの弛緩）

（目的：「主導⇔受容」「互いに力を抜いた」関係を作っていく）  
 カウントをしている間、最初は息を止めておられたが、徐々に自然体の呼吸へ。

ひねったままの同じ姿勢を維持することは難しく、手を離すと手足が上がってきってしまう。

その場で完全に離れた形で終えることはできないと判断し、カウントを数え、「〇」の経験で終わるようにした。



（挿絵：あかりの家 前田晴帆）

(3) シャツと靴下の着用

- ・事前情報では着用できないと言われていたシャツと靴下を提示し、「これから、きちんと着て生活するからね」と話し、渡すため息を一息つかれた後、自ら履くことができた。
- ・その後、トイレへ。職員がペーパーをゆっくり5カウントに合わせて巻き取り、Aさんに渡して拭いてもらった。  
 カウントをとって巻き取る場所を見せることで今後、Aさんにもできるようになってもらえるようことを意識。

13

13

👉 ③ 衝動的・強迫的な行動への支援

排泄①（失禁）

(1) 経過・見立て

失禁、頻尿は中1になってすぐ始まる（環境変化への適応難？）。

↓ <B園>多飲水→失禁も増加。今（2019夏）は「更衣室で服を脱ぐ→投げる（全裸）→職員が取りに行く→その間に失禁」と複雑・パターン化

【行動の仮説】①多飲水、②衣服着用のこじれを巡った訴えの要素。

- ・あかりの家では衣服着用を始め、日常のやりとりのズレを最小限にし、  
 【観察事項】「①排尿は最後まで出し切っているか？」「②トイレ間隔はどのくらいもつのか？」を押さえる事で、失敗なく過ごせるのでは？

(2) 支援方法

- ① 定時誘導し、おしっこを出し切ることを習慣化  
 [出し切れていないから、また行く→そこを止めると失禁]  
 [「おしっこを勢いよく出す→瞬時にピッと止めてしまう」のが現状]

(3) 結果（受入れ3ヶ月後）・失禁0回。トイレ間隔は当初15分間隔→1時間30分間隔へ。

(4) 総括（何が有効だった？）

- ・トイレ間隔を把握し、誘導時に出し切る → “失禁ゼロ生活”の習慣化。

14

### 👉 ③ 衝動的・強迫的な行動への支援

#### 排泄②（ペーパーを空になるまで巻き取る）

##### (1) 経過・見立て

- ・当初（高等部）は「残りわずか」な状況と限定的だったが、今は「見ればしてしまう」「空に巻き取る以外の行動の選択肢がない」状況。

##### (2) 支援方法

- ・ペーパーを使い切ろうとする動きが出ないように対応。**行動が流れるまま**にならない事を意識。
- ・<STEP>「5カウントに合わせて」
  - ①職員がペーパーを渡す
  - ②職員は手添えてAさんが巻取る
  - ③（手添えなしで）Aさんが巻取る

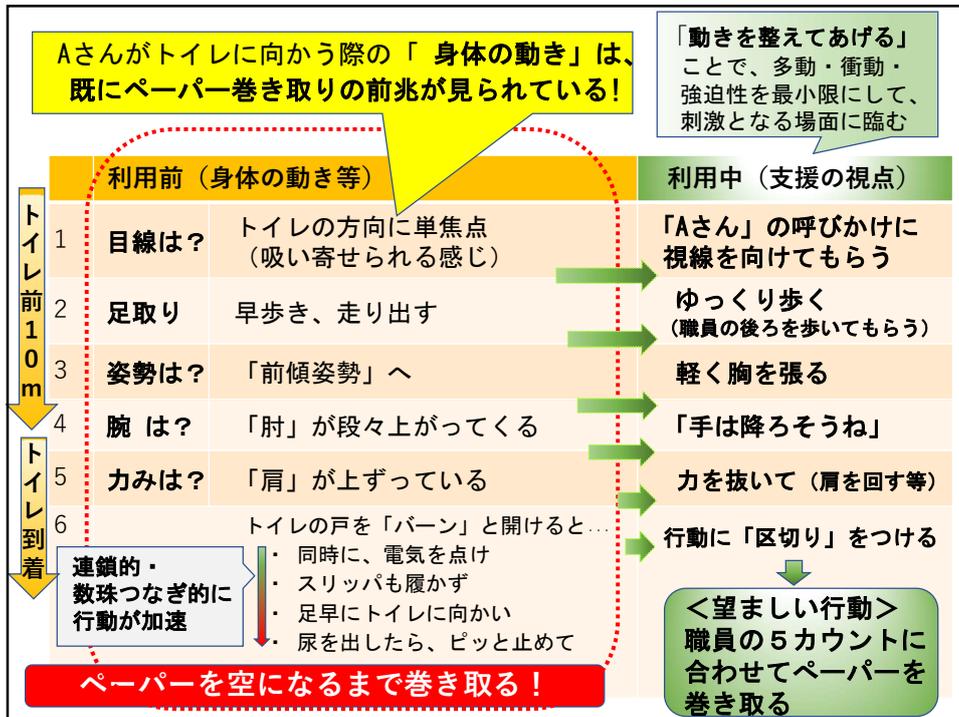
①	トイレに行く道中、職員はAさんの前を歩く
②	トイレのドア前、一旦止まる
③	中靴を脱ぐ
④	揃える
⑤	トイレスリッパを履く
⑥	職員がトイレに誘導
⑦	ペーパーがある側に職員が立つ
⑧	排尿、出し切る
⑨	<b>ペーパーを5カウントに合わせて巻き取り、拭く</b>

(3) 結果（受け入れ3ヶ月後）・空に巻き取ることは0回（付添あり）。家庭でも同様。

(4) 総括（何が有効だった？）

- ・空に巻き取り出してからの対応でなく、先回りの取り組み（近因<sup>15</sup>、遠因）

15



16

## <強度行動障害の支援の難しさはココ>

### 強度行動障害に有効な支援構造

図2 強度行動障害に有効な支援構造 (飯田雅子 2004)  
時間をかけて、成功経験を重ねる



生物学的条件の整備 (生活リズム・食事・排泄・睡眠)  
引用：強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】  
受講者テキスト

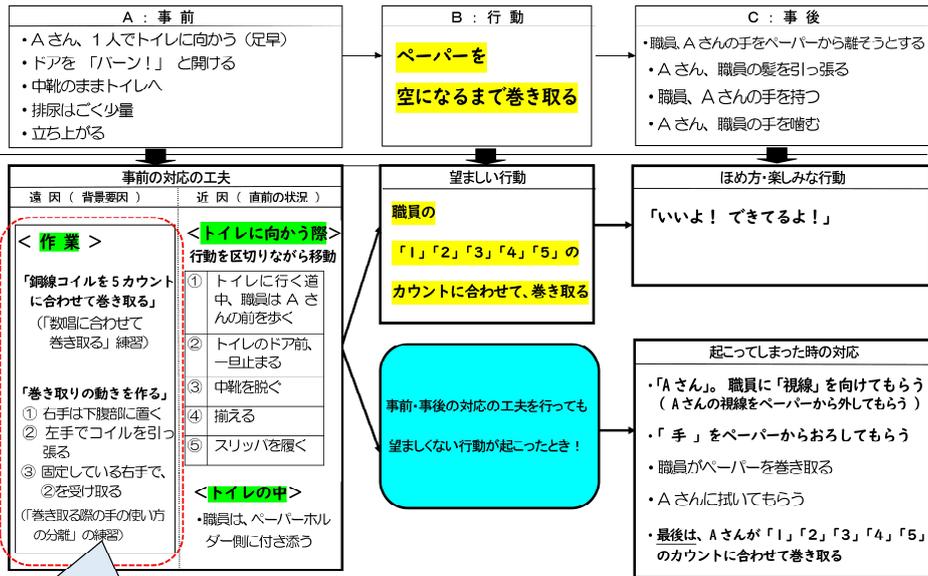
### <あかりの家が考える視点>

- … 私たちにもある行動
- … 強度行動障害の方は、繰り返せば繰り返すほど、自分では止められなくなる傾向
- … ①「前兆レベルで働きかけ、『〇』の積み重ね」を軸に！  
(後手の事後修正は、更に強迫性が増す可能性)
- ②困っている行動の場面  
=多動、衝動、強迫性が顕著  
で対応のハードルが高い  
→比較的ハードルの低い日常場面こそ、軽減の視点を持って積み重ねていく  
【例：食事（を見たら突っ走っていく等）】

17

第1期 まずあかりの家で生活を再構築

### ストラテジーシート 「ペーパーを空になるまで巻き取る」編



日常の場面でも、練習的要素を取り入れる

【【様式】鳥取大学大学院 医学系研究科 教授 井上雅彦先生 (HPより)】

18



#### ④ 余暇の過ごし方

－「何もしない時間をどう過ごすか」が地域生活を左右－

##### (1) 仮説・見立て

- ・「手先は不器用ではない？」→箸で人参をはさめる。
- ・何を取り組むにしても、“指先を使う”ことは関連する。  
→ “指先を使える”人に導いてあげたい。

##### (2) 対応

- ・ビーズ暖簾やスクラッチアート、おりがみ（やっこさん）、ハンドタオル洗濯干し・たたみなどに取り組む。
- ・できあがりはその都度、園長等に「できたよ！」と報告にいき、褒めてもらう機会を作っていた。



##### (3) 結果

- ・ビーズ暖簾、1本完成。
- ・完成品を見て、母が泣いて喜ばれた。
- ・最後までやり遂げる力もついてきた。

(4) 何が有効だった？：「完成」までたどりつき、完成品を周りの人が喜んでくれた事→事業後、ヘルパーと行い、地域生活での充実した余暇へ。

19



#### 「余暇時間に取り組める活動」の発掘



「ビーズ暖簾」：Aさんが作成

20

# 「ビーズ暖簾」づくり

- ①組立図を見る（職員）
- ②各小箱にビーズを入れる（1～5個。最初は職員）
- ③糸にビーズを通す・・・



(挿絵：あかりの家 支援員 前田晴帆)



家庭での生活を想定した母親との関わり

## ★ビーズのれん

時間	課題	Aさんに対しての支援	気をつけること等
17:10	ビーズのれん 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 写真カードを指さし「次これするから取りに行きます」と言う</li> <li>2. 立つように声かけをして、立ってもらう</li> <li>3. 椅子を戻す</li> <li>4. 後ろの棚に行く</li> <li>5. ビーズ暖簾のセットを取る</li> <li>6. イスに座ってもらう</li> <li>7. 椅子を引く</li> <li>8. 「1」から順にビーズの入った箱ごと渡す</li> <li>9. ビーズを通してもらい空箱をふたに順番に並べてもらう</li> <li>10. 一本通し終わったら「できました」と報告する。</li> <li>11. ヘルパーがカウンター上にあるのれんの続きにつるす</li> <li>12. カードを片づける</li> <li>13. 立つように声かけし、立ってもらう</li> <li>14. 椅子を片づける</li> <li>15. ビーズ暖簾のセットを棚に片づける</li> <li>16. 椅子に座る</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビーズをセットしているので中身がバラバラにならないよう手添えもしくはヘルパーが運んで下さい。</li> <li>・箱の数字を声にしながら箱から出す。ふたに数字を書いています。</li> <li>・出来上がったら続きに吊るす。増えていく喜びを感じてもらおう。この作業が難しいようなら針をつけたまま置いてください。</li> </ul>

### 母親がヘルパーへ手順書を作ってみる



(6) 主訴となった行動の変化 (事業終了1ヶ月後)			効果の検証
	利用前		利用後 (家庭・施設)
	家庭	施設	
服脱ぎ	裸のまま過ごしている事もある	<b>1日全裸の後、更衣室から出れない状態。多い時で1日20回。</b>	0回
失禁	なし 〔トイレ通いは止めない(30~40回/日)〕	<b>1日3回程度。多い時は10回以上/日</b>	0回
ペーパー使い切り	使い切ってしまう為、ホルダーにつけていない	<b>1日2本は使い切る。</b> 止めると他害(髪の毛を掴む、頭突き、噛む)	0回
作業		歩き回る、ソファに寝転んでいる。異食(石・葉・段ボール等)	約1時間半、立ち歩きもなく取り組める
食事	食べ物を一度食器から机に出し、手づかみで食べる。エプロン着用		介助箸で食べている(食べこぼし減少。エプロン使用せず)
睡眠	22時~3時。覚醒後、冷蔵庫の食物をあさる。(他多数)トイレに水浸け		22~7時頃の睡眠。中途覚醒なし

23

(7) 事業後1年半、Aさんの現在は・・・?	効果の検証
<ul style="list-style-type: none"> <li>•服を脱いでしまうことはない(年中裸足→靴下履く)</li> <li>•失禁もゼロ</li> <li>•家にトイレットペーパーを置けるようになった (トイレットペーパーの巻取りはほぼない。しようとしても止めると収まる)</li> <li>•食事は介助箸で食べられている(うどんは要介助)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>•作業: <b>ビーズのアイロンコースター作り</b>に励んでおられる(母の日、父の日、妹の誕生日にプレゼント)</li> <li>•ヘルパーとの過ごし方も、<b>外出が可能に!</b> (事業前はリスクが高い為、断わられていた)</li> </ul>	

24

## (8) 地域での安定的な暮らしの回復・維持に当たって何が効果的だったか？

### ① あかりの家での<行動・生活リズムの再構築>

= これが「地域生活における再スタートラインづくり」になっている

↓

そのノウハウを地域につなぐ

・安定的な状態を維持し続けることは、一般的に困難。

(A) 状態の崩れにつながりやすい着眼点 (B) 手立ての習得は自信へ。

### ② ヘルパーとの過ごし方の充実

→ 母の休息の確保 (Aさん母の場合、平日仕事後の週4回利用)

①利用初日を  
成功させてあげる

②食事・睡眠・排泄/  
日中活動の充実 (別紙2)

③衝動的・強迫的な  
行動への支援

④余暇時間に  
取り組める活動の発掘

⑤医療との連携  
(事業嘱託医) (別紙1)

25

25

## おわりに「家族目線でとらえる(妹)」

効果の検証

— Aさんの妹さんの人権啓発研究誌への投稿 —

### 届け！心の声

B小学校6年 Aさんの妹

私のお姉ちゃんには、障がいがあります。お姉ちゃんの体は大人だけど、心は1歳3ヶ月の元気いっぱいのお姉ちゃんです。私とお姉ちゃんは10才、歳がはなれています。私が生まれたときから、お姉ちゃんがいるのが当たり前だし、お姉ちゃんの障がいのことを友だちに何か言われたこともなくて、特に意識したことはありませんでした。



(挿絵：あかりの家 支援員 前田晴帆)

お姉ちゃんは紙を破ることが大好きで、目をはなすと置いている紙を何でも破ってしまいます。今まで学校の宿題プリント、ノートや描いた絵を何度も破られたことがあります。

泣きながらお母さんに言うと、「だから言うとするやん、置いとったアンタ

26

が悪いんやろ。」と、なぜか私が怒られます。

「なんで私が怒られるん？ねえねが悪いんやろ。」と言うと、言葉がしゃべれないお姉ちゃんはお母さんに連れられ、「ごめんね。」と言っているように、笑顔で手を合わせてペコッと頭を下げます。私にはこの時、心の声が聞こえます。だから、この笑顔についつい、「いいよ。」と言ってしまいます。

お姉ちゃんは、去年3ヶ月間施設に入所しました。生きていく力をつけるためです。お姉ちゃんのいない生活は、はじめのうちは『こんなに楽ちんか。』と思いましたが。宿題を出しっぱなしにしても破られないし、お母さんに「ねえね、みといて。」と言われることもなくなりました。『私は自由だ!』と思いました。

でも、少ししてくると、

「ねえね、今頃なにしているのかな？」

「ご飯、食べてるのかな？」

「さみしくて泣いてないかな？」

と思うようになりました。さみしくなったのは、私の方でした。

27

27

お正月休みにお姉ちゃんが一週間帰ってきたときは、  
「やっと、帰ってきてくれた。」とうれしくなりました。帰ってくる日、私は部屋を片付け、ワクワクしてお姉ちゃんを待ちました。お姉ちゃんはご飯をきれいに食べられるようになっていたり、ビーズのれんが作れるようになっていたり、いろいろなことができるようになっていておどろきました。「施設に入所して、どれだけお姉ちゃんはがんばってきたんだろう…。」と感心しました。同時に、お姉ちゃんや私たちのために、たくさんの人が支えてくれていることをはじめて実感しました。

どんな強い人でも、人は一人では生きていけません。だから、誰かが誰かを支えることで、みんなが生きていけるのです。お姉ちゃんと今、また一緒に暮らすようになって少し大変になったけど、お手伝いをいっぱいして私も家族を支えてあげたいです。

お姉ちゃんは、私のことが大好きです。時々、私のことを抱きしめてきます。そして、私のアゴをさわってきます。そんな時、私は目を閉じて、じっとして幸せを感じています。

今マスク生活が続いて、言葉での理解が難しいお姉ちゃんには、相手の表情を読み取ることができません。私にはお姉ちゃんの心の声が聞こえるので、お姉ちゃんにマスクの向こうの気持ちをかわりに伝えたいです。障がいがあってもなくても、幸せに暮らせる世の中になるように、まずはできることをひとつひとつ行動していきたいです。

「私たちの仕事  
の原点は何か？」  
を  
立ち返らせて  
くれる作文です  
(涙)

ご清聴

ありがとう

ございました！



28